



見て学ぶ園生活

園長 篠澤 恵理

同じ敷地内にある梅木小学校から、運動会練習の音楽が聞こえてくると、子どもたちは、嬉しそうに校庭まで見に行きます。先日、5年生が2日間、幼稚園に遊びに来た際に、とても優しく関わってくれたので、小学生に親しみを感じていることも、関心を向けるきっかけになっています。

6年生の鼓笛は、大きな旗を回したり、太鼓などの楽器を演奏したりするので、特に子どもたちの憧れようです。年長もり組は、自分たちも運動会で披露するダンスで小旗を使用するので、同じように旗を回しながら、鼻歌とともに行進していました。また、年少りす組は、3・4年生の演技「A・RA・U・MA」の太鼓の音がすると、すぐに校庭に出かけていきます。じっくりと見た後は、しっぽ取りに使用している紐を両手に持って、小学生の演技を見ながら再現していました。初めの頃は、片足で跳ねる荒馬の動きが難しかったようで、すぐに両足をついていましたが、続けているうちに、体でリズムを感じながら飛び跳ねることができるようになっていきました。片足で跳ね続けることは、幼児にとってかなりの運動量ですが、「やってみたい。」と心が動くと、動きも軽やかになると感じます。さらに、「らっせーら」の掛け声に合わせて、三三七拍子の太鼓のように、園にある積木を手でたたき始める子もいました。すぐにタンブリンも用意すると、友達の音と合うことが楽しくなって、何度も踊りながら奏でていました。運動と楽器遊びが融合したような、楽しい場面でした。子どもたちが、この遊びを繰り返すうちに、体の動きのしなやかさと、拍子を刻むリズム感を得られたことは、大きな学びとなりました。これからも、小学生の学校生活がすぐ近くで感じられる環境を生かして、充実した毎日になるように、子どもたちと一緒に、耳を澄ませたり目をこらしたりしながら、楽しい遊びを見つけていきたいと思います。



えがおにこにこコーナー



年少児と年長児が一緒になって遊ぶことも増えてきました。年少児は、年長児のダイナミックな砂遊びに影響を受けてまねることや、大型ブロックの車の作り方を教えてもらうこともありました。

また、赤羽北桜高校との交流では、マンツーマンで対応していただき、しっかりと甘える様子も見られました。未就園児のための幼稚園開放日では、園児より年下の子のことを思いやる姿もありました。自分が優しくされた経験が、次の「人との関わり」へとつながっていることは、何よりの成長です。



【小学生の演技を見つめて】



【しっぽ取り遊び】



【砂遊び】